学校番号				
3	1	0	0	9

令和６年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 7 日

札幌市立 星友館中学校

1　今年度の重点目標

生徒が安心できる環境づくりに努めます。「安心感のある」授業を提供します。新しい仕組みづくりに向けた検討を行います。

2　本年度の経営方針

生徒の困りや願いに寄り添う教職員/開かれた学校・つながる学校づくり/変化し続ける学校づくり

3　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す生徒像	自分らしい生き方の実現を目指し、学び続ける生徒	一人一人の学びに合わせた教育が充実しているか。	A	授業中、教員を複数配置したり、学習サポーターを増やしたりして、個に応じた指導を行っている。また希望者に0時間目（課業前）や夏期、冬期講習を行っている。	A	A
	自分を活かし表現することに挑戦し、共に学び合う生徒	自己表現し、それを認め合う場が充実しているか。	A	学習や行事で自分の思いや考えを表現する活動に取り組んでいる。書初め大会、文集づくり、文化学習発表会での作品展示など互いの努力や頑張りを認め合うことができるようにしている。	A	A
	違いを認め合い、大切にし合える生徒	国籍や年齢など多様さを尊重する雰囲気が醸成されるような取組を行っているか。	A	多様な生徒がいること、認め合うことの大切さを道徳や日常の掲示物、学校便り等で啓蒙している。また、日頃の生徒指導においても、他者を認める指導を繰り返しており、多様性を尊重する雰囲気ができてきている。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・教職員が目指す生徒像をよく理解し、様々な取組を時間をかけて行っていることは、とても素晴らしい。 ・出席率については課題であるが、上記のような志を維持し発展させていけば、実る日がきっと来る。 ・教職員によって改善が進んでいる。一方で０時間目の取組は教員の過剰労働にならないよう、地域や外部機関との連携も検討が必要。 ・学習サポーターの交流会はサポートの仕方や悩みを共有するとてもよい機会だ。さらなる充実を期待する。				

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
知・徳・体のバランスのとれた育ち	学ぶ力	「分かる」「できる」「楽しい」授業の推進	理解度に合わせた授業の進め方をすることができているか。	A	今年度さらに発展１、発展２の２つの学習コースを増やし、生徒の理解度に合わせた学習展開ができるようにした。また、生徒に応じた指導ができるよう、教職員で研修する等、指導方法の工夫に努めた。	A	A
	豊かな心	生命・命を大切にする指導	命の大切さや生命の尊さについての指導を行っているか。	A	日常の生徒指導において、自らの健康や命を大切にするように指導を積み重ねてきた。また、道徳やカフェテリア、SCによるイドバタタイムを通して、自他の命を大切にする心の醸成をしてきた。	A	A
	健やかな体	将来にわたる健康な体の育成	運動への関心を高め、心身ともに健康な生活を実現しているか。	A	体育の授業、年2回のスポーツ交流会、0時間目の体育等、日常的に体を動かすことができるようにしてきた。また、ライフスキルなどの道徳でも健康について考える場を設定してきた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・新たな教育活動への挑戦、今後の取組に向けた改善に敬意を表す。 ・日本語能力と教科の学力のギャップを解消したり、その他、生徒のニーズに応じた柔軟な体制「学校らしくない学校」も目指してほしい。 ・少ない教員数で、多様なニーズに応えている。学ぶ力については、生徒数が多く多様性が高まるとさらに検討すべきことが多くなる。 ・道教委のオンライン授業を見て、星友館の授業の質の高さを感じた。				

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
札幌らしい特色ある学校教育の推進	未来の札幌を考える「環境」	SDGsの視点から「環境」に関する学習の充実を図っているか。	A	日常生活におけるゴミ分別等の指導を継続。年２回の校外学習において、環境、歴史、科学をテーマに探究活動を設定。SDGsの視点をもった取組を充実させた。	A	A
生徒の発達への支援	特別な配慮を必要とする生徒への教育	日本語指導が充実しているか。 教育相談体制が充実しているか。	A	日本語指導では、サポートを受けながら他コースの教科学習へ参加する取組を通して、習得した日本語の汎用、定着を図ることができた。また、年５回の教育相談を実施。生徒のニーズに応じた合理的配慮を行ってきた。	A	A
信頼される学校の創造	家庭や関係機関との連携	札幌遠友塾、若者支援総合センター、国際プラザ、大通高校と連携しているか。	A	学校運営協議会では、委員の皆様にも熟議に参加していただくことで、よりよい学校づくりに向けての意見交流の場を設定することができた。また、若者支援総合センターと連携し、生徒の居場所や相談先とつながる機会をつくることができた。	A	A
教科等の枠組を越えた教育	人間尊重の教育	生徒のコミュニケーション能力を育む取組が行われているか。	A	ライフスキルなどの道徳や、0時間目のイドバタタイムなどで、意欲的にコミュニケーションできる機会を設定。学校行事でも協力し合ったり、認め合う場を設定し、生徒の思いを表出、交流できる活動を充実させてきた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・生徒と触れ合い、言葉を受け止めていこうとする姿勢が素晴らしい。関係機関との連携も継続して充実させてほしい。 ・SDGｓに取り組むにあたって、星友館らしい取組を検討してほしい。 ・学習サポーター（ボランティア）について大学とも連携して増員を検討していくことを望む。 ・大通高校との連携について、双方でどのようなことが可能なのか意見交換をはじめるとよい。				

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校独自に設定する分野	生徒の誰もが安心できる環境整備		A	教室の増設、防音壁の設置工事、パーテーションの活用等、生徒の困りやニーズに応じた対応を行ってきた。生徒の困りや悩みに関しては、カウンセリングルーム等を整備し、その積極的な活用を行ってきた。	A	A
	生徒のニーズに合わせた変化し続ける学校づくり		A	日頃の生徒からの相談はもちろん、学校運営協議会への生徒代表の参加、年2回生徒アンケートの実施等、生徒の思いや願いを積極的に聞くようにしている。また、生徒のニーズを聞きながら、学習コースを毎年再編している。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・安心できる環境づくりが結実していると感じる。生徒と教職員とのコミュニケーションが今回のキーワードである。今後も継続してほしい。 ・学校運営協議会における生徒幹事との熟議が素晴らしかった。 ・表面化されたニーズに応えるだけでなく、常に一人一人の声を聴き、さらなる高みを目指すよう期待する。 ・全国に先駆けた学習コースの設定等の工夫が見られる。このような取組が日本を救うと思われる。				